

(様式1)

平成29年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 044	提案機関名 県央家畜保健衛生所
要望問題名 「かながわ鶏」の飼養管理技術（暑熱対策）の確立	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ・平成28年度から、県畜産技術センターで作出した「かながわ鶏」ヒナの生産農場への本配布がスタートするが、本県には今まで肉用鶏生産がほとんどなく、本鶏種に適した飼養管理技術の普及が課題として挙げられる。 ・さらに肉用鶏では、暑熱時には熱射病が多発し、増体・飼料要求率などの生産性の低下、死亡に至るなどの経済的損失が大きくなることが言われており、暑熱対策は重要とされる。 ・そのため、本県の暑熱時における本鶏種に適した給与飼料、飼養密度、鶏舎内環境などについて検討していただきたい。	
解決希望年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	肉用鶏の飼養管理技術については、出荷日齢や給与飼料が発育や肉質に及ぼす影響について検討し、データを収集しているところです。 ご要望にあるとおり、肉用鶏は暑熱時の増体・飼料要求率などの生産性の低下が著しく、暑熱対策は非常に重要です。かながわ鶏の特性を把握した上で、暑熱時の生産性の低下を最小限に抑える給与飼料、飼養密度、鶏舎内環境などについて検討していきます。		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			